

平成5年3月4日

第6回『みつけよう私のとしま』 写真コンテスト応募作品展示会

6日まで、豊島区民センターで

4日、豊島区民センター1階展示場(東池袋1-20・豊島公会堂隣)で、第6回『みつけよう私のとしま』写真コンテスト全応募作品の展示会が始まった。入場無料。6日まで。

この写真コンテストは、刻々と移り変わる都市景観、いつの時代にも変わらぬ情緒に包まれている史跡など豊島区のあらゆる姿を区内外のアマチュア写真家に表現してもらおうと、1987年から豊島区と豊島区観光協会が主催している観光写真コンテスト。

6回目の開催となった今年は、過去最高の144名のアマチュア写真家が参加した。応募作品総数は493点。例年のことながら、区内・都内はもちろん近県からの応募も多数あった。

その中から、グランプリである『推薦』には、日野市在住の品川明雄さんの作品『ふくろ祭りの日』(自由テーマ・カラー部門)と、練馬区在住の大沢智仁さんの『噴水と鳩』(自由テーマ・モノクロ部門)が選ばれた。『ふくろ祭りの日』は、神輿の上の『赤フン』姿の男の子を主演として、担ぎ手や背景を巧みに組み合わせ、祭の勇壮さを見事に表現した作品。また、『噴水と鳩』も、池袋の新名所であるメトロポリタンプラザビルと、公園の噴水、飛び立つ鳩を遠近感溢れる構図で美しくまとめた作品。

また、昨年から新たに設けられた課題の部の今回のテーマは『スポーツの秋』。中学校の運動会での騎馬戦を写した豊島区在住・田村喜美子さんの作品『駒込中学校の熱血児』など、小中学校や地域の運動会を表情豊かに表現した10点が『入選』に選ばれた。

全部門の審査は、写真家の伊奈喜久雄氏ら13名の審査員が担当した。伊奈審査委員長は、「一つの地域を対象としたコンテストは、回を重ねるうちにマンネリズムという評価を受けることがあります。このコンテストも題材的に大きな変化はありませんでしたが、今回の入賞作品は、それぞれに対象の見方がより深まっており、それがレベルアップにつながっているようです」と講評する。

展示会場には、入賞作品はもちろん全応募作品が展示され、区内外のアマチュアカメラマンがとらえた豊島区のバラエティに富んだ姿が所狭しと並んでいる。

開場時間は、午前9時から午後6時まで(6日は午後4時まで)。

問合せ 経済課振興係

平成4年9月4日

第6回『みつけよう私のとしま』

写真コンテスト作品募集はじまる

刻々と移り変わる都市景観、いつの時代にも変わらぬ情緒を漂わせる名所旧跡、副都心・池袋のエネルギーを象徴するかのような祭の熱気....

多種多様な表情をもつ豊島区の魅力を区内外のアマチュアカメラマンに表現してもらおうと、豊島区及び豊島区観光協会が昭和62(1987)年以来毎年開催している『みつけよう私のとしま写真コンテスト』。第6回を迎える今年の作品募集が始まった。

回を重ねるごとに応募点数も増え続け、昨年は500点を超えた。区内・都内はもちろん埼玉県・神奈川県・千葉県など関東近県からの応募も多数あり、アマチュア写真家の間にもすっかり定着した観光写真コンテストに成長している。

募集部門は、自由テーマ第1部(カラー)、自由テーマ第2部(白黒)、及び課題テーマ(カラー)の部の3部門。今年の課題テーマは、スポーツに汗を流す生き生きとした区民の姿を写した『スポーツの秋』。

いずれの部門も、六ツ切プリント、単写真に限る(組写真不可)。締切は11月30日(必着)。部門別に審査の上、入賞者には各賞が贈られる。応募用紙は、豊島区役所、各出張所、及び豊島区内の写真材料商業協同組合加盟写真店で配布中。一人あたりの応募点数に制限あり。詳しくは、豊島区区民部経済課☎3981-1111内線2451へ。

問合せ 経済課振興係